

年次報告書 2022



上越教育大学学校教育実践研究センター

巻頭言

学校教育実践研究センターは、教育実習の推進、臨床的・実践的・開発的研究の推進、学校および地域社会との連携・支援を柱とし、大学と地域・学校とのハブ的な役割を果たしています。

2020年から続く新型コロナウイルスの感染状況によって、様々な対応が必要となる中、今年度も当センターの事業に取り組むことができました。

これもセンター職員の献身的な働きとチームワーク、そして地域や学校との強い信頼関係によるものと考えております。近隣あるいは遠隔地にある教育委員会をはじめ、実習に協力してくださる多くの学校の協力なしには継続することができませんでした。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

教職員のための自主セミナーで実施した講座数は142で、参加者はのべ1,607人でした。対面、オンラインを組み合わせることが当たり前となり、より参加者のニーズに合ったセミナーが実施できるようになったのではないかと考えています。

また、今年度も昨年度に引き続き教育実践研究発表会を完全オンラインで開催しました。ホスト側も参加者側もオンラインに慣れ、トラブルなく実施することができました。参加者アンケートでは、オンラインでの実施を望む声が多かったことから、今後もオンラインでの実施を継続していきたいと考えています。

コロナ感染の流行がどこまで続くのか見通しが持てない中、ロシアによるウクライナ侵攻など、様々な不安が残る社会情勢ですが、子どもたちが未来に希望が見える社会に向けて、ますます教育の重要性が強調されるでしょう。

学校教育実践研究センターでは、地域、学校、先生方、児童生徒、そして先生を目指す学生の支援をこれからもコツコツと続けていきます。

本報告書は令和4年度の学校教育実践研究センターの取組をまとめたものです。

ご一読いただき、当センターの取組について知っていただければ幸いです。

(学校教育実践研究センター長 中野博幸)

1. プロジェクト研究

教員養成カリキュラム開発 教育実地研究Ⅱ

学校現場では、日々さまざまな課題に直面し、その対応を求められています。
学校教育実践研究センターでは、新しい時代の教員養成に向けて、様々な実践と研究を行っています。

教員養成カリキュラム開発 教育実地研究Ⅱ

上越教育大学 学校教育実践研究センター

山上 純 荒木 良則

1. はじめに

教育実地研究Ⅱは、学部2年生及び免P1年生の必修科目として設定されている。次年度に教育実習を控えた学生が本講義を受講することを通して、児童・生徒の前に自信をもって立つことができるとともに、基礎的な授業の計画・実践・評価を行うことができるようにすることがねらいである。

2. 教育実地研究Ⅱの授業の概要

(1) 話し方・模擬授業

①話し方の基本

朝の会や帰りの会で「子どもに向かってある事柄を連絡する」場面を設定し、「話す」ことを体験的に学んだ。ここでは主に、話し方や表情、姿勢や視線など、授業者としての振る舞い方について、スマートフォン、タブレット等で自分が話す場面を自分で録画して、自分で振り返りを行った。

《課題の例》

【朝の会】熱中症予防

暑い時期を迎えて、熱中症予防の指導をすることがあります。運動の仕方や遊び方、日常生活においても注意する必要があります。テキストに書かれてある場面や情報を基に、子どもへの伝える内容を考えます。考えたことを基に、実際に話してもらいます。

②模擬授業

自分で指導案を作り、7分間の模擬授業に取り組んだ。次年度、中等教育実習へ行く学生以外は小学校の授業を公開した。また、模擬授業①、模擬授業②として、一人が2回模擬授業（異なる教科）を行った。7分間という限定された短時間での公開であったが、学生は授業をつくることの難しさや教材準備の重要性を感じるとともに、子どもとのやりとり等、その場その場での柔軟な姿勢も必要であること

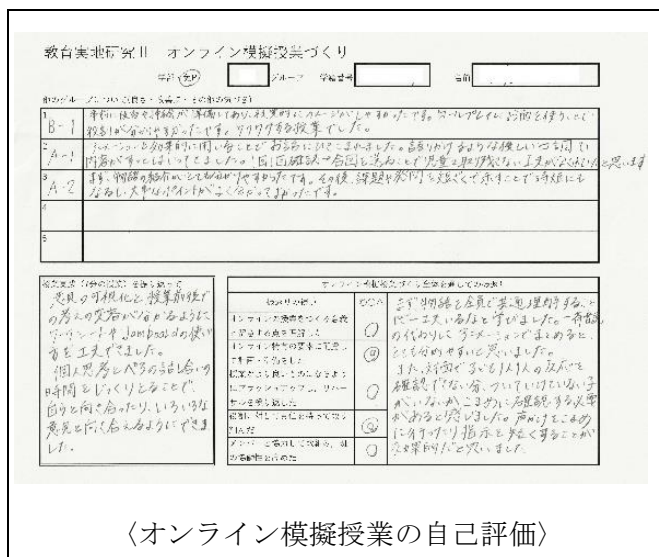
学年用	
模擬授業 自己評価カード	
学部・免P () グループ ()	
各項目で【十分】 △：0点、概ね達成している○：1点、とてもよい◎：2点	
評価者 教員研修の指導員氏名	
① 学習目標・授業計画が達成できているか	◎ 授業計画や授業の進め方など、どの部分も達成できていたと評価できる。
② 話し方の明確さ	◎ 話し方の声や話し方を聞き取りやすく、聞き取りやすいように工夫がなされていた。
③ 資料・教材が、十分に活用できているか	◎ 授業内容や話し方の工夫が、資料や教材にうまく活用されていた。
④ 視座を合議に向け、話しているか	◎ 話し手の視線や姿勢が、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑤ 発声や声、話し方のリズムが適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑥ 子どもの様子に対し、適切な対応がとれているか	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑦ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑧ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑨ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑩ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑪ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑫ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑬ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑭ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑮ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑯ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑰ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑱ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑲ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
⑳ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉑ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉒ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉓ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉔ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉕ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉖ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉗ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉘ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉙ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉚ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉛ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉜ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉝ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉞ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㉟ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊱ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊲ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊳ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊴ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊵ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊶ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊷ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊸ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊹ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊺ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊻ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊼ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊽ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊾ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。
㊿ 授業の進め方が適切か	◎ 話し手の発声や話し方のリズムが、話し手と聞き手との間で適切に調整されていた。

《模擬授業の自己評価》

を実感することができた。また、1回目の模擬授業を行い、自身の授業動画を視聴したり、仲間と振り返りをしたりすることで、2回目の模擬授業では、課題意識をもって臨むことができた。

③オンライン模擬授業（実施2年目）

数人でチームを作り、役割分担をして、非対面型遠隔形式の特別の教科 道徳の授業をつくり、実践した。非対面式の授業であるため、教材の見せ方の配慮や子どもとのやりとりを同様に行うか等、チームで検討し、その効果や課題を体験することができた。



(2) 授業づくり基本編

①オムニバス講座

・学習指導案の基本

模擬授業、または、教育実習を行うに当たり、指導案の作成が必須となる。ここでは基本的な学習指導案の書き方について学んだ。指導案を作成する順序や「開いた発問」「閉じた発問」の違い等を学び、実際に国語と算数の略案指導案を作成した。

・教材教具と児童理解（荒木）

教材教具の効果的な活用法と授業に役立つ児童理解の方法について学んだ。また、ICT活用について求められていることを確認した。実際にJamboardで教材を作成する活動を通して、教材作成にあたって考えるべきことやICT活用のポイントに気付くことができた。

・学習形態（山上）

授業における様々な学習形態の種類とその効果について学んだ。ペア学習とグループ学習のメリットとデメリットを比較検討することを通して、子どもの学習意欲を向上させ、内容理解を促すために、最適な形態を選択する必要性に気付くことができた。

・机間指導（栗林）

授業における机間指導の目的と効果的に実践するための8つのポイントを学んだ。2つの事例についてのグループ討議を通して、具体的な声の掛け方や支援策を考え、学校ボランティアや教育実習での実践に向けての意欲を高めることができた。

・ねらいと評価（谷内）

授業におけるねらいと評価の関係や意義について学んだ。ペア・グループ対話やレポート作成

等、アウトプットの時間を多く取り、内容を自分事として捉えられるようにした。学生たちは特に「指導と評価の一体化」や「形成的評価」について興味を示した。

・板書の基本（中島・平間）

授業における板書の基本的な役割と実際について学んだ。指導案を作成し、学習課題、学習活動、学習のまとめを、どのタイミングで、黒板のどこに配置するかなど板書計画を作成し、実際にチョークで板書した。教育実習に向けて板書の重要性と難しさに気付くことができた。

・学校教育の基本（神村・森）

学校教育の課題や問題点、教員としての仕事について学んだ。また、教員としてのやりがいについて考えるとともに、教員に求められる資質・能力について理解を深めた。新潟県教員育成指標の採用段階に照らして今の自分を振り返ることで、目指す教師像とそのための課題を明確にすることができた。

②集中講義（ICT）（中野・清水）

iPad や Chromebook を用いて、基礎的な操作や活用の仕方について学んだ。大半の学生は Windows を使用しているが、全国あらゆる都道府県に採用となることを見据え、様々な機器を扱うことができるようにした。視聴覚担当、情報担当となった場合にも即戦力として貢献する姿を期待する。

③集中講義（外国語活動、音楽、図工、体育、家庭）

附属小・中学校の教諭を講師として、外国語は、全受講生が受講し、実技系の4教科は各学生が選択し、受講した。各講師が学校で授業を行う際、どんなことを考え、どのような準備をし、どのように授業を実践しているのかについて実際の授業の様子を交えて話があった。

〈学生の感想〉

外国語の受講生より

講師 丸山考平教諭（附属小）

文化的側面と関連づけて教えるというのがとても勉強になりました。子どもたちがよく知っている映画を取り上げて、翻訳する活動は、子どもたちのモチベーション向上に繋がりますし、ただ直訳するのではなく文脈に合わせて訳すという力に繋がりと、子どもたちの力になる活動だと思いました。

音楽の受講生より

講師 渡邊 めぐみ教諭（附属小）

音楽では、なぜ学校の授業で音楽を取り組むのかということや、具体的な活動の内容について知ることができました。三三七拍子は、誰でも知っている身近にあるものです。それを音楽のリズム学習にすることで、子どもたちが取り組みやすい教材になることがわかりました。わ

かりやすい教材を応用することで、楽しく学び音楽に親しみを持ってもらえるのだとわかりました。興味を持って音楽について楽しく学べる教材を考えていきたいと思いました。

図工の受講生より

講師 志賀 雄斗教諭（附属中）

本日、図工の評価方法について学びました。たしかに、実際に教師になっていきなり図工の授業をして評価もしてとなると専門家でも無いのにどうしたらいいか迷ってしまう可能性はとても高いと思います。なので今日のような機会は本当に貴重だと思いました。自分でまずはやろうと思うことをやってみて面白いものを子どもたちにもやらせてあげたいし、それぞれ一人一人の個性も認めてあげられるように評価の仕方などはもう少し練習が必要だと感じました。

体育の受講生より

講師 齋藤 晃教諭（附属小）

体育の授業の目的や意義を自分で考えるきっかけになった。バスケットボールやサッカーといったもとからある競技をやるのではなく、もとからある競技の動きを参考にして、子どもたちが学びを深められるような新しい活動を考えていて驚いた。「スティールボール」という活動をしたが、ゲーム性や相手と味方の特徴から戦略を考え、ただ身体を動かすことが体育ではないということを痛感した。

家庭科の受講生より

講師 丸山 佳織教諭（附属小）

家庭科では、日常生活に役立つ視点も取り入れた活動をしていくことが重要だと分かりました。その中で生徒に考えさせる活動、授業の中ではじゃがいもを茹でる時間と茹でる時の形が例として挙げられていましたが、確かにそのような生徒に考えさせる活動も大切だと学びました。また、それだけでなく季節などに関連付けながら取り組める活動も良い活動だと、実際に裁縫の活動に取り組みながら感じました。家庭科の授業構想の観点を学ぶことができてよかったです。

（3）話し方テスト・文字用語テスト

話し方テストでは、朝の会・帰りの会での話す内容についての課題（「I 授業基礎研究」のデータや紙テキスト参照）から一つを決めて、その課題について児童に向けた話をした。（パフォーマンス・テスト）

《話し方テストの課題例》

【朝の会】ジャガイモの収穫

春植えたジャガイモの収穫期がきました。今日の放課後、全員で収穫します。その中から少し茹でて試食をします。校長先生やお世話になった用務員さんにも試食していただこうと思います。子どもへ、収穫への動機づけを行います。

文字用語テストでは、「I 授業基礎研究」のテキストにある漢字（読み方、書き取り、書き順）と教育用語についてのテストを行った。（記述テスト）

（4）教育実習事前面談

次年度に教育実習を控える学生と担当教員が面談を行った。一人 15 分程度の面談を行い、1 年間の取組の成果を確認したり、教育実習を行うに当たり、不安や疑問等について相談したりした。

3. まとめ

通年の本講義を通して、教職に対する意識について、学生の大きな成長を感じた。それまで教職という職業を漠然と捉えていた学生は、模擬授業や子どもを意識したスピーチ等を体験することで、その難しさを実感し、今後自分が身に付けていくべき必要なことを知ることができた。学校ボランティアAの取組として学校へ支援に行くことで、実際に各校の教員が実践している様子や子どもの実態を観察し、本講義で学んだことが授業のどの場面で生きるのかについてより鮮明に意識することができたのではないかと考える。本講義では今後も実践的で、学校現場で生かせる力を身に付けさせることができるよう、指導をしていきたい。

2. 教育実践研究発表会

学校教育に関する理論的・実践的知識を集積し、それを活用できるようにすることで、学校教育全般の質の向上に資することを目的として、当センターに編集委員会を設け、毎年「教育実践研究」を発刊しています。本年度、「教育実践研究 第33集」掲載論文の募集を行い、115の応募があり、審査の結果、43編の掲載を決定し刊行しました。

また、令和3年度に刊行した論文集「教育実践研究 第32集」に掲載した研究成果を、より多くの学校現場の先生に共有していただくため、論文執筆者による「第20回教育実践研究発表会」を令和4年8月5日（金）にオンラインで開催しました。発表者39名、参加者107名の計146名の参加がありました。「教育実践研究」の掲載論文は、次のサイトで閲覧できます。
<http://www.educ.juen.ac.jp/library/>

第20回教育実践研究発表会プログラム

日時 令和4年8月5日(金) 10:00~16:00
実施方法 オンライン (Zoom)
受付 9:30~10:00 受付 (Zoom ミーティングに参加)
開会式 10:00~10:15 学長あいさつ
発表会 10:25~15:50 (12:00~13:10 昼食休憩)
閉会式

○第一分科会 司会：谷内・平間

- ① 10:25~10:45 <国語> 武田 純弥 (魚沼市立広神西小学校)
「小学校中学年文学の読解における「作品の全体像を読む」学習」
- ② 10:50~11:10 <国語> 佐藤 仁 (妙高市立斐太北小学校)
「課題意識をもって書く学習の在り方についての一考察」
- ③ 11:15~11:35 <国語> 松崎 祐太 (柏崎市立荒浜小学校)
「物語の読みにおける「問い」が質的に向上する学習過程の要件～学習者が駆動させる言葉による見方・考え方のズレに着眼して～」
- ④ 11:40~12:00 <国語> 上山 晃平 (柏崎市立北条中学校)
「演劇的手法の活用を通じて、登場人物の心情に迫る生徒の育成」
<昼休憩 12:00~13:10>
- ⑤ 13:10~13:30 <社会> 小林 真紀人 (上越市立直江津中学校)
「小学校社会科における空間認識力を高める授業実践—第3学年「買い物はどこで」の実践を通して—」
- ⑥ 13:35~13:55 <社会> 宮越 俊宏 (長岡市立表町小学校)
「社会的事象に自分を近づけ、問題解決に向けて多面的・多角的な視点で考えをもつ児童の育成—小学校第4学年「水はどこから」の実践を通して—」
- ⑦ 14:00~14:20 <総合的な学習の時間> 酒井 佑輔 (新潟市立赤塚小学校)
「小学校高学年の総合的な学習の時間における学習意欲の変容を促す指導の在り方に関する実践的研究—単元全体を通じた「価値ある体験活動」の工夫—」
<小休憩 14:20~14:40>
- ⑧ 14:40~15:00 <総合的な学習の時間> 八木 ゆかり (糸魚川市立能生中学校)
「持続可能な開発目標 (SDGs) の視点から地域の課題を見出し、主体的に課題解決に取り組む生徒の育成」
- ⑨ 15:05~15:25 <教育方法一般> 寺島 元子 (上越市立三郷小学校)
「対話的な交流に「深い学び」をもたらす指導の工夫— (かかわり方スキル) の活用と話合いのモニタリング活動を通して—」
- ⑩ 15:30~15:50 <学年・学校経営等> 寺島 恭平 (上越市立直江津小学校)
「共感的な対話をベースにした継続的な授業リフレクションによる若手教師の成長・発達に関する事例的研究」

○第二分科会 司会：荒木・神村

- ① 10:25～10:45 <算数・数学> 今井 啓太（柏崎市立第一中学校）
「データを活用するうえでの視点に迫る問題解決的な学習指導」
 - ② 10:50～11:10 <算数・数学> 高山 史（長岡市立豊田小学校）
「学びに向かい、考えを深める子どもの育成ー体験的な学びとタブレット端末を関連付けた実践を通してー」
 - ③ 11:15～11:35 <算数・数学> 大川 栞（阿賀野市立堀越小学校）
「児童が問題場면을正確に理解し、主体的・対話的に学習に取り組む指導の工夫」
 - ④ 11:40～12:00 <算数・数学> 山口 哲史（燕市立燕南小学校）
「算数学習において、主体的に学ぶ児童を育成するための工夫～「学び方のメタ認知を促進する3つの視点」と「学習を個別最適化する4つの自由」～」
- <昼休憩 12:00～13:10>
- ⑤ 13:10～13:30 <算数・数学> 大島 翔太（十日町市立十日町小学校）
「日常生活から算数的場面を見出し、考えようとする児童の育成ー5学年「速さ」の実践を通してー」
 - ⑥ 13:35～13:55 <理科> 坂上 直樹（新潟市立山の下中学校）
「主体的・対話的で深い学び」を進めるための授業づくりータブレット端末を活用した天気予報の実践を通してー」
 - ⑦ 14:00～14:20 <理科> 山岸 昂平（柏崎市立第三中学校）
「個別最適な学びによる「自ら学習を調整する力」の育成への有効性～学習支援動画による学習活動をを通して～」
- <小休憩 14:20～14:40>
- ⑧ 14:40～15:00 <理科> 宇野 超（魚沼市立湯之谷小学校）
「関連ある複数単元をつなぎ、知識のネットワーク化を図る学習活動ー第5学年「生命のつながり」を題材としてー」
 - ⑨ 15:05～15:25 <生活> 丸山 佳織（上越教育大学附属小学校）
「気付きの質を高め、成長の自覚化を図る飼育活動実践ー1年生におけるヤギ飼育活動と振り返り作文の分析を通してー」
 - ⑩ 15:30～15:50 <生徒指導> 岡田 明子（長岡市立豊田小学校）
「卒業に向けた不登校傾向解消への取組」

○第三分科会 司会：栗林・中島

- ① 10:25～10:45 <外国語> 早津 康平（妙高市立新井小学校）
「小学校外国語科における「話すこと [やり取り]」への動機づけを高める指導の工夫」
- ② 10:50～11:10 <外国語> 中山 孝毅（柏崎市立鏡が沖中学校）
「自分の考えや気持ちを表現する生徒の育成～産出的技能の育成のための効率的な手立て～」
- ③ 11:15～11:35 <外国語> 江口 宗俊（柏崎市立柏崎小学校）
「外国語における ICT の活用」
- ④ 11:40～12:00 <外国語> 長谷川 亜耶（長岡市立曾亀小学校）
「既習の英語表現を進んで活用し、伝えたいことを表現しようとする児童の育成ーコミュニケーションの目的の設定と単元入れ替えを通してー」

<昼休憩 12:00～13:10>

⑤ 13:10～13:30 <体育・保健体育> 松枝 公一郎（上越市立春日中学校）

「中学校第1学年ネット型バレーボールの単元構成ーゲームを理解するための攻撃と防御の一考察ー」

⑥ 13:35～13:55 <体育・保健体育> 江村 祐介（十日町市立松之山中学校）

「自分たちで創りあげる集団行動を通して、仲間意識や集団意識を高められる学級集団の育成」

⑦ 14:00～14:20 <体育・保健体育> 小島 寛則（上越市立浦川原中学校）

「主体性を育み、体力の向上を促す手立ての工夫～生徒がつくるW-UPが授業への取組を変える～」

<小休憩 14:20～14:40>

⑧ 14:40～15:00 <図画工作・美術> 石垣 言美（長岡市立上組小学校）

「多様な表現を認め合い「造形的な見方・考え方」を広げる鑑賞指導の在り方ー「対話型鑑賞」の実践を通してー」

⑨ 15:05～15:25 <学校ヘルスケア> 青柳 七奈（佐渡市立赤泊中学校）

「「けんこうの日」における養護教諭や担任からの手立てが、児童に与える効果に関する事例研究ー月2回の生活習慣改善取組の実践よりー」

⑩ 15:30～15:50 <家庭> 青木 久美江（柏崎市立第二中学校）

「主体的に意思決定する力を育む消費者教育～意思決定プロセスの活用～」

○第四分科会 司会：山上・森・渡辺

① 10:25～10:45 <道徳> 重野 典子（新潟県立柏崎翔洋中等教育学校）

「多様性を理解し、豊かに生きる視点の醸成～「多様な性」をテーマにして～」

② 10:50～11:10 <特別活動> 相田 祥和（新潟市立白根小学校）

「小学校1年生における主体性を高める生活当番活動の実践ー児童が潜在的にもつ主体性を引き出し、高めるための工夫ー」

③ 11:15～11:35 <特別活動> 本宮 佑二郎（新発田市立加治川小学校）

「学級会における合意形成を図る力の育成ーガイダンスの充実とルーブリック評価の活用を通してー」

④ 11:40～12:00 <特別活動> 高坂 菜里（三条市立月岡小学校）

「「主体的・対話的で深い学び」が実現する学級づくりー特別支援学級在籍児童を含めたクラス会議の実践と学級力分析を通してー」

<昼休憩 12:00～13:10>

⑤ 13:10～13:30 <特別支援教育> 畠山 高宏（新潟県立吉川高等特別支援学校）

「Web 会議システムの活用による場面緘黙生徒への不安度に基づく発話支援」

⑥ 13:35～13:55 <特別支援教育> 松澤 絵里（糸魚川市立糸魚川小学校）

「漢字学習につまづきを示す児童のイメージを付加した書字指導の効果」

⑦ 14:00～14:20 <特別支援教育> 室星 亜耶（柏崎市立柏崎小学校）

「「読み」の多層指導モデルMIM による読みの力の向上と学級担任の意識の変容」

<小休憩 14:20～14:40>

⑧ 14:40～15:00 <特別支援教育> 丸山 悦子（上越市立大手町小学校）

「知的障害児学級における表現と書字に困難を示す児童に対するタブレット学習の効果」

⑨ 15:05～15:25 <特別支援教育> 神村 亮太 (新潟県立はまぐみ特別支援学校)

「聾学校小学部における日本手話による学習指導の効果」

⑩ 15:30～15:50 <技術> 水野 頌之助 (上越市立城北中学校)

「生物育成における技術ガバナンスレビュー学習のカリキュラムデザインと学習評価規準—ゲノム編集技術を教材にして—」

一人20分 (発表15分, 質疑応答5分)

※ 発表間に5～10分間の発表者の交代時間をとっています。

第 20 回教育実践研究発表会 参加申込み状況

参加申込者数 115 名

時間別内訳

午前 42 名, 午後 23 名, 全日 25 名, 一部 25 名

所属機関別内訳

	小学校	中学校	幼稚園	特支	その他	計
上越市	13	13	5		7	38
三条市	12	8				20
柏崎市	9	2		1	1	13
新潟市	8	2			1	11
長岡市	6	2		2	1	11
糸魚川市	5					5
見附市	3			1		4
十日町市	1	3				4
魚沼市	1	1		1		3
村上市				1		1
妙高市		1				1
加茂市	1					1
南魚沼市				1		1
弥彦村	1					1
出雲崎町	1					1
計	61	32	5	7	10	115

その他の内訳

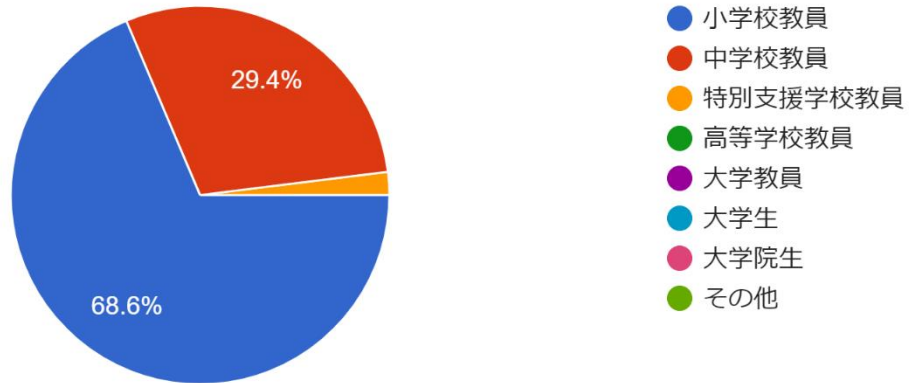
上越市 学内(教員・学生)6名, 教育委員会 1名

柏崎市, 長岡市, 新潟市 教育委員会各 1名

第20回教育実践研究発表会アンケート結果

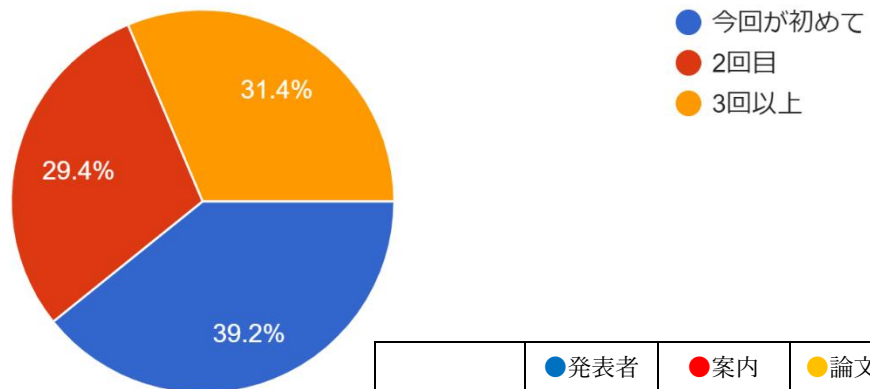
1 所属について教えてください。

51件の回答



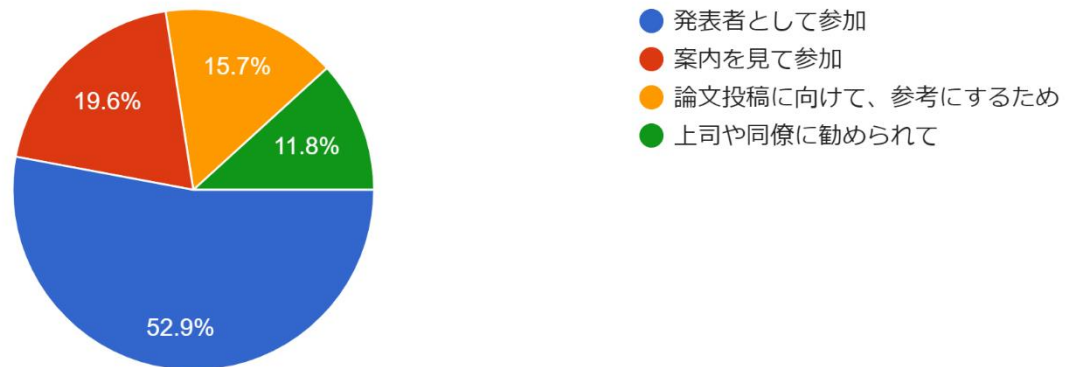
2 教育実践研究発表会への参加回数は？

51件の回答



3 参加の動機は何ですか？

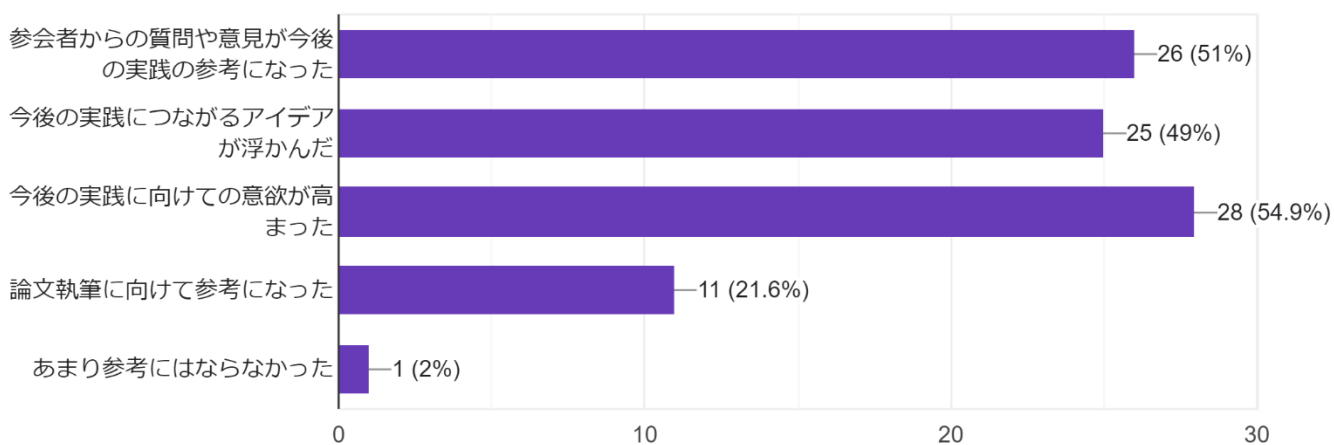
51件の回答



	●発表者	●案内	●論文投稿	●勧誘
●初めて	10人	3人	3人	4人
●2回目	12人	1人	1人	1人
●3回目	5人	6人	4人	1人

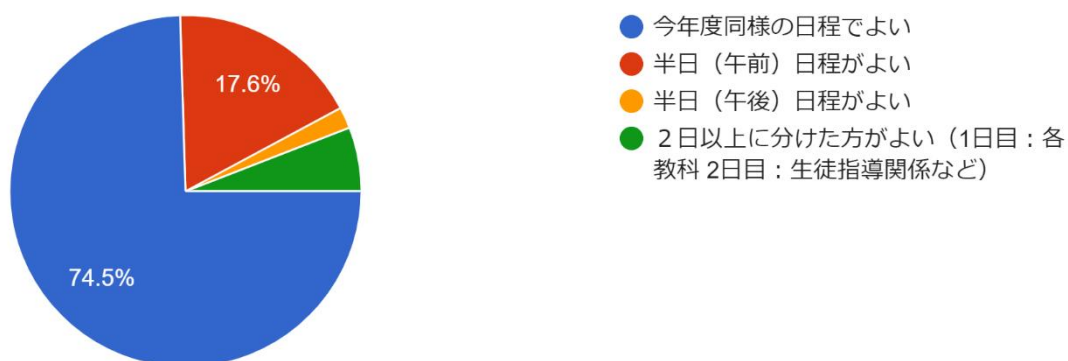
4 参加してどうでしたか？

51件の回答



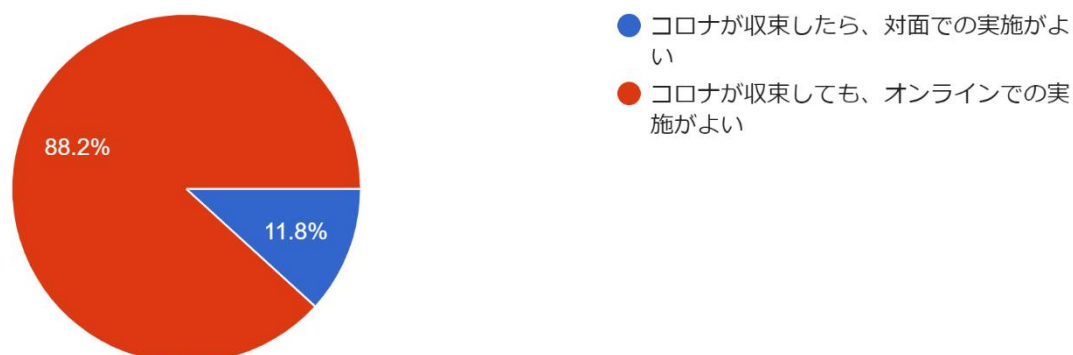
5 日程について

51件の回答



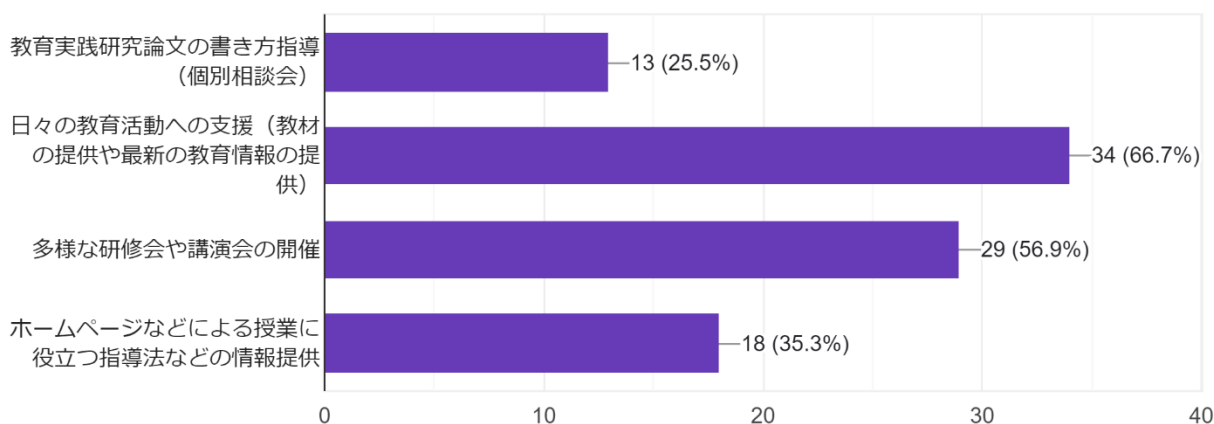
6 実施形態について

51件の回答



7 上越教育大学 学校教育実践研究センターの事業として、どのような内容を希望しますか？

51件の回答



- ・様々な分科会に参加できてよかった。
- ・他の方の実践が大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・発表時に、画面の共有がうまくいかなかったのですが、司会の先生の迅速な対応により、画面を提示していただくことができました。ご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。オンラインでの開催は、気軽に参加でき、いろいろな分科会への移動もスムーズになるため、良いと思います。
- ・論文提出後のご指導、本当にありがとうございました。自分の実践を振り返り、多くの方の前で発表をさせていただく貴重な機会となりました。今後ともご指導よろしく願いいたします。
- ・お忙しい中、準備していただきありがとうございました。
- ・授業実践の話が聞けてとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・今後の自分の実践に生かせそうな話を聞くことができ良かったです。今回の学びをこれからに活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・現場の先生方の数々の実践をお聞きすることができて、論文の書き方だけでなく、普段の授業にも活かせることがたくさんあると感じました。今日の機会ですんだことを、現場で活かせる教員でありたいと思います。本日はありがとうございました。
- ・たいへんありがとうございました。とても有意義な時間を過ごさせていただきました。
- ・発表者として初めて参加させていただきました。接続や画面共有のテストにも温かく対応していただき、スムーズに発表することができました。ありがとうございました。
- ・実践を通して、自身の実践に役立つものや新しい発見、知識を獲得したりすることができました。
- ・勉強させていただきました。ありがとうございました。
- ・いろいろと勉強になりました。みなさん難しいことに取り組んでおられ、成果も挙げられていることが伝わりました。素晴らしいです。参加して良かったです。発表する機会をいただいたことにも心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・自分が見たい論文発表を自由に選んで見られる今のやり方がとてもいいです。対面形式だと、部屋の移動で慌ただしくなりますが、Zoomなら自由に移動できてとても良いです。また、自宅から快適に参加できるのもとても良いです。

- ・質問6について、コロナが収束したら、対面とオンラインのハイブリッドがよい。
- ・いろいろご準備いただきありがとうございました。参考になる実践がたくさんあり、勉強になりました。一日中画面を見続けるのは少し難儀でした。代案は浮かびませんが、従来のタイムスケジュールではなく、オンラインにも対応できるスケジュールを組んで頂けると参加しやすいと思います。
- ・今年度は、参加されている方々の顔が見られて安心しました。ありがとうございました。半日日程の方が参加しやすいです。2日間となってしまう大変かもしれませんが、1日はとても長いと感じました。
- ・オンラインの研修でしたので、遠隔からも参加しやすかった。また、質問等もしやすかった。発表者、準備してくださったスタッフ、司会進行、機械操作等の皆様に感謝いたします。これからもぜひ続いてほしい発表会です。授業実践について語り合う機会が、校内ではだんだん少なくなっているように思います。教科を語り合えるネットワークは貴重だと考えます。ありがとうございました。
- ・発表の内容がどれも素晴らしく、大変充実した学びの場になりました。オンラインの方法は、参加しやすく、大変よかったです。あちこちで、たくさん質問し過ぎました。大変失礼いたしました。
- ・大変学びになりました。遠方に住んでいるので、オンラインでの開催は大変助かりました。
- ・たくさんの方に聴いていただけて、大変ありがたかったです。また進行の平間先生からの的確な意味付け、コメントも大変ありがたかったです。発表時間の関係と私の力不足とが相まって、自分が伝えたかったことが伝えきれなかったという後悔があります。次回発表させていただく機会を得ましたら、教訓にしたいと思います。大変ありがとうございました。
- ・先生方の発表や質問、司会の栗林先生のお話でとても啓発されました。楽しいと感じました。来年も参加したいと部分的にでも思います。
- ・県内各地の様々な研究・実践を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。今日までのご準備、当日の運営等、大変ありがとうございました。

主催 上越教育大学 学校教育実践研究センター
<https://www.educ.juen.ac.jp>

第
20
回

教育実践 研究発表会

令和4年8月5日(金)
10:00～16:00

オンライン(Zoom)

※事前申込みのみ

申込み締切：8月1日(月)

本発表会への参加を希望される方は
右のQRコードからお申込ください



本件お問い合わせ先 上越教育大学学校実習課

TEL: 025-521-3276

MAIL: gakkoren@juen.ac.jp

3. 学校及び地域社会との連携・支援

教職員のための自主セミナー

*** 水曜自主セミナー**

学校の教育課題に応じたテーマで設定し、地域の教員や大学院生を対象とするセミナー

*** 教師力向上セミナー**

- ・若手セミナー【若手】 採用から5年目までの若手教員の教師力向上を目指すセミナー
- ・キャリアアップセミナー【CU】 新潟県の教員育成指標をもとに、それぞれのキャリアステージに必要なテーマを設定して、若手・中堅・ベテラン教員が相互に関わって、それぞれのキャリアアップを図るセミナー

開催時間；18時30分～20時 受講費無料

令和4年度 教職員のための自主セミナー 報告書

上越教育大学 学校教育実践研究センター 谷内 卓生

1 今年度の実施状況

(1) セミナー全体 (2/15 現在)

回数：142回 延べ参加者数：1,607名 (R3:143回1,498名 R2:93回877名)

No.	期日	曜	セミナーの内容	代表者・講師	参加数
1	3月30日	水	学級開きセミナー	学教センター職員(神村・森・荒木・谷内)	23
2	4月20日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」①	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	4
3	4月20日	水	教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会①	大場浩正(上教大)	3
4	4月22日	金	読みの会/パステル①	学教センター職員(谷内)	7
5	4月27日	水	はじめてのオンライン授業学習会①	学教センター職員(谷内)	4
6	4月27日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)①	野田晴高(上越特別支援学校)	3
7	4月27日	水	地域の統計データを授業で活用してみよう	松井研究室、内海巖(創造行政研究所副所長)	13
8	4月27日	水	小学校 通常の学級における特別支援教育①	関原真紀(上教大)	2
9	5月2日	月	『拡張する学校』を上越で共につくる会①	高橋栄介(上越市教委) 山住勝広(関西大学教授)	31
10	5月11日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)②	野田晴高(上越特別支援学校)	2
11	5月18日	水	教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会②	大場浩正(上教大)	1
12	5月18日	水	はじめてのオンライン授業学習会②	学教センター職員(谷内)	4
13	5月18日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」②	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	7
14	5月18日	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー①	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)	45
15	5月18日	水	小学校 通常の学級における特別支援教育②	関原真紀(上教大)	2
16	5月18日	水	上廣道徳教育アカデミー道徳教育セミナー①	上廣道徳教育アカデミー	15
17	5月25日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会①	瀧澤典子(上教大)	9
18	5月25日	水	学校における食育の実践と評価①	野口孝則(上教大)	10
19	5月25日	水	夕暮れの自然観察講座①	五百川裕(上教大)	9
20	5月27日	金	読みの会/パステル②	学教センター職員(谷内)	7
21	6月1日	水	体育の授業づくりについて①	土田了輔(上教大)	23
22	6月8日	水	体育の授業づくりについて②	土田了輔(上教大)	18
23	6月8日	水	学級づくりセミナー(若手教員限定)	学教センター職員(清水)	3
24	6月8日	水	上廣道徳教育アカデミー道徳教育セミナー②	上廣道徳教育アカデミー	15
25	6月8日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)③	野田晴高(上越特別支援学校)	4
26	6月8日	水	マップで学ぶ問題解決①	小川亮(富山大研究員)	3
27	6月8日	水	街中でもできる季節ごとの星座と惑星①	稲葉浩一(上越天文教育研究会)・学教センター職員(神村)	4
28	6月15日	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー②	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)	57
29	6月15日	水	はじめてのオンライン授業学習会③	学教センター職員(谷内)	8
30	6月15日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」③	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	7
31	6月15日	水	体育の授業づくりについて③	土田了輔(上教大)	26
32	6月15日	水	教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会③	大場浩正(上教大)	4
33	6月22日	水	上廣道徳教育アカデミー道徳教育セミナー③	上廣道徳教育アカデミー	15
34	6月22日	水	夕暮れの自然観察講座②	五百川裕(上教大)	10
35	6月22日	水	小学校 通常の学級における特別支援教育③	関原真紀(上教大)	9
36	6月22日	水	学校における食育の実践と評価②	野口孝則(上教大)	35
37	6月22日	水	国語科指導案づくりセミナー	学教センター職員(谷内)	30
38	6月22日	水	iPadを活用した音楽づくり研修	小島淳(里公小校長)	17
39	6月24日	金	読みの会/パステル③	学教センター職員(谷内)	5
40	6月29日	水	学校における食育の実践と評価③	野口孝則(上教大)	10
41	6月29日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会②	瀧澤典子(上教大)	10
42	6月29日	水	マップで学ぶ問題解決②	小川亮(富山大研究員)	1
43	6月29日	水	けん玉セミナー①	学教センター職員(栗林)	4
44	7月6日	水	上越音楽授業研究サークル	小林順子(柿崎小)	6
45	7月6日	水	街中でもできる季節ごとの星座と惑星②	稲葉浩一(上越天文教育研究会)・学教センター職員(神村)	6
46	7月6日	水	けん玉セミナー②	学教センター職員(栗林)	4
47	7月6日	水	小学校 通常の学級における特別支援教育④	関原真紀(上教大)	5
48	7月13日	水	学校における食育の実践と評価④	野口孝則(上教大)	13
49	7月13日	水	けん玉セミナー②	学教センター職員(栗林)	3
50	7月20日	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー③	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)	40

51	7月20日	水	はじめてのオンライン授業学習会④	学教センター職員(谷内)	6
52	7月20日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)④	野田晴高(上越特別支援学校)	3
53	7月20日	水	夕暮れの自然観察講座③	五百川裕(上教大)	10
54	7月20日	水	けん玉セミナー③	学教センター職員(栗林)	5
55	7月22日	金	読みの会/パステル④	学教センター職員(谷内)	8
56	7月27日	水	社会科授業の会「新潟水俣病を学ぶ①」	志村喬(上教大)	42
57	7月27日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会③	瀧澤典子(上教大)	4
58	7月27日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」④	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	13
59	7月27日	水	算数科指導案づくりセミナー	学教センター職員(谷内)	22
60	8月10日	水	ICT×Education×SDGs	菊地徹(教職大学院生)	12
61	8月17日	水	はじめてのオンライン授業学習会⑤	学教センター職員(谷内)	9
62	8月17日	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー④	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)	38
63	8月20日	土	体育授業に関する勉強会	土田了輔(上教大)	99
64	8月24日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会④	瀧澤典子(上教大)	6
65	8月24日	水	夕暮れの自然観察講座④	五百川裕(上教大)	10
66	8月24日	水	教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会⑤	大場浩正(上教大)	4
67	8月24日	水	2学期準備セミナー	学教センター職員(山上)	3
68	8月24日	水	上越国語同好会 授業実践情報交換	上越国語同好会 学教センター職員(森)	13
69	8月24日	水	社会科授業の会「新潟水俣病を学ぶ②」	志村喬(上教大)	18
70	8月26日	金	読みの会/パステル⑤	学教センター職員(谷内)	10
71	8月31日	水	けん玉セミナー④	学教センター職員(栗林)	7
72	9月8日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」⑤	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	7
73	9月8日	水	街中でもできる季節ごとの星座と惑星③	稲葉浩一(上越天文教育研究会)学教センター職員(神村)	7
74	9月8日	水	けん玉セミナー⑤	学教センター職員(栗林)	8
75	9月14日	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー⑤	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)	43
76	9月14日	水	けん玉セミナー⑥	学教センター職員(栗林)	4
77	9月21日	水	けん玉セミナー⑦	学教センター職員(栗林)	5
78	9月27日	火	上越国語同好会 授業実践情報交換	上越国語同好会 学教センター職員(森)	11
79	9月28日	水	はじめてのオンライン授業学習会⑥	学教センター職員(谷内)	3
80	9月28日	水	統計学を学ぼう	小川亮(富山大研究員)	7
81	9月28日	水	けん玉セミナー⑧	学教センター職員(栗林)	6
82	9月29日	木	読みの会/パステル⑥	学教センター職員(谷内)	7
83	10月5日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会⑤	瀧澤典子(上教大)	5
84	10月5日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」⑥	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	5
85	10月5日	水	学校における食育の実践と評価⑤	野口孝則(上教大)	10
86	10月5日	水	けん玉セミナー⑨	学教センター職員(栗林)	5
87	10月12日	水	上廣道徳教育アカデミー道徳教育セミナー④	上廣道徳教育アカデミー	12
88	10月12日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)⑤	野田晴高(上越特別支援学校)	3
89	10月12日	水	秋の授業づくりセミナー【国語・社会】(若手教員限定)	学教センター職員(栗林)	2
90	10月12日	水	人権教育、同和教育セミナー①	上越地区同和教育研究協議会	37
91	10月19日	水	けん玉セミナー⑩	学教センター職員(栗林)	5
92	10月19日	水	はじめてのオンライン授業学習会⑦	学教センター職員(谷内)	2
93	10月19日	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー⑥	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)	46
94	10月25日	火	教科の本質を踏まえた授業実践を実現する!	志村喬(上教大)	14
95	10月26日	水	人権教育、同和教育セミナー②	上越地区同和教育研究協議会	48
96	10月26日	水	けん玉セミナー⑪	学教センター職員(栗林)	5
97	10月26日	水	統計学を学ぼう	小川亮(富山大研究員)	7
98	10月26日	水	上越国語同好会 授業実践情報交換	上越国語同好会 学教センター職員(森)	15
99	10月28日	金	読みの会/パステル⑦	学教センター職員(谷内)	4
100	11月2日	水	学校における食育の実践と評価⑥	野口孝則(上教大)	9
101	11月2日	水	iPadを活用した音楽づくり研修	小島淳(里公小校長)	6
102	11月2日	水	けん玉セミナー⑫	学教センター職員(栗林)	5
103	11月9日	水	上廣道徳教育アカデミー道徳教育セミナー⑤	上廣道徳教育アカデミー	17
104	11月9日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会⑥	瀧澤典子(上教大)	6
105	11月9日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」⑦	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	9
106	11月9日	水	書写指導セミナー「攻略!書き初め指導法」	荒川圭子	8
107	11月9日	水	けん玉セミナー⑬	学教センター職員(栗林)	5
108	11月9日	水	児童・生徒の学びを支援する電子補助機器の製作に関する教育実践	東原貴志(上教大)	2
109	11月10日	木	人権教育、同和教育セミナー③	上越地区同和教育研究協議会	55
110	11月16日	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー⑦	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)	28
111	11月16日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)⑥	野田晴高(上越特別支援学校)	4

112	11月16日	水	教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会⑥	大場浩正(上教大)	1
113	11月16日	水	けん玉セミナー⑭	学教センター職員(栗林)	3
114	11月25日	金	読みの会/パステル⑧	学教センター職員(谷内)	11
115	11月30日	水	統計学を学ぼう	小川亮(富山大研究員)	6
116	11月30日	水	けん玉セミナー⑮	学教センター職員(栗林)	4
117	12月7日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会⑦	瀧澤典子(上教大)	6
118	12月7日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)⑦	野田晴高(上越特別支援学校)	3
119	12月7日	水	けん玉セミナー⑯	学教センター職員(栗林)	3
120	12月14日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」⑧	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	4
121	12月14日	水	けん玉セミナー⑰	学教センター職員(栗林)	4
122	12月14日	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー⑧	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)	35
123	12月21日	水	はじめてのオンライン授業学習会⑨	学教センター職員(谷内)	5
124	12月21日	水	ICT×Education×SDGs	菊地徹(教職大学院生)	7
125	12月21日	水	特別なニーズを有する子どもたちの学びを問う	留目宏美(上教大)	28
126	12月21日	水	統計学を学ぼう	小川亮(富山大研究員)	7
127	12月21日	水	けん玉セミナー⑱	学教センター職員(栗林)	3
128	12月23日	金	読みの会/パステル⑨	学教センター職員(谷内)	2
129	1月11日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会⑧	瀧澤典子(上教大)	2
130	1月11日	水	けん玉セミナー⑲	学教センター職員(栗林)	4
131	1月18日	水	はじめてのオンライン授業学習会⑩	学教センター職員(谷内)	4
132	1月18日	水	教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会⑥	大場浩正(上教大)	2
133	1月18日	水	けん玉セミナー⑲	学教センター職員(栗林)	3
134	1月18日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	2
135	1月25日	水	統計学を学ぼう	小川亮(富山大研究員)	4
136	1月27日	金	読みの会/パステル⑩	学教センター職員(谷内)	4
137	2月1日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会	瀧澤典子(上教大)	2
138	2月1日	水	けん玉セミナー⑳	学教センター職員(栗林)	4
139	2月8日	水	けん玉セミナー㉑	学教センター職員(栗林)	2
140	2月15日	水	教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会	大場浩正(上教大)	8
141	2月15日	水	けん玉セミナー㉒	学教センター職員(栗林)	4
142	2月15日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	5
143	2月22日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)	野田晴高(上越特別支援学校)	
144	2月22日	水	統計学を学ぼう	小川亮(富山大研究員)	
145	2月22日	水	けん玉セミナー㉓	学教センター職員(栗林)	
146	2月22日	水	大学数学授業におけるパフォーマンス課題と評価	高橋等(上教大)	
147	2月24日	金	読みの会/パステル⑩	学教センター職員(谷内)	
148	3月1日	水	英語 de インクルーシブ教育実践研究会	瀧澤典子(上教大)	
149	3月1日	水	「特別支援教育×ICT 学習会」	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)	
150	3月1日	水	けん玉セミナー㉔	学教センター職員(栗林)	
151	3月8日	水	けん玉セミナー㉕	学教センター職員(栗林)	
152	3月8日	水	子どものデジタル機器の過剰使用に関する抑制因の解明と予防教育の実践	田中圭介(上教大)	
153	3月15日	水	教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会	大場浩正(上教大)	
154	3月15日	水	けん玉セミナー㉖	学教センター職員(栗林)	
155	3月15日	水	「授業力向上!」学習会(教育サークル Sky-high!)	野田晴高(上越特別支援学校)	
156	3月22日	水	ICT×Education×SDGs	菊地徹(教職大学院生)	
157	3月22日	水	統計学を学ぼう	小川亮(富山大研究員)	
158	3月22日	水	けん玉セミナー㉗	学教センター職員(栗林)	
159	3月29日	水	けん玉セミナー㉘	学教センター職員(栗林)	

2 成果と課題

(1) 参加者数の増加

4月当初、総回数・総参加数の減少が心配された。昨年度参加者が多かった学級開きセミナー(赤坂真二先生:1回29名)、学級経営セミナー(佐藤賢治先生:計8回39名)、生活科・総合セミナー(松井千鶴子先生:計4回123名)がなくなったからである。しかし新規のセミナーがいくつか加わったことで、2/15の時点で昨年度より総回数が16回、総参加者数が109名上回っている【表1】。新規セミナーの一つは土田了輔先生による体育の授業づくりセミナーである。春から夏にかけて4回行われ、最後のセミナーには99名もの参加者が集まった。もう一つは栗林育雄先生によるけん玉のセミナーである。6月から毎週行われ、計30回延べ105名の参加者が集まった。地域の一般の方が参加したり栗林先生が学校に出向いて講師を務めたりと、

他のセミナーとは異なる広がりを見せた。また山口先生と平間先生による「これからの保育と幼少接続を考えるセミナー」は8回の参加者数が332名となり、昨年同様、年間で最も参加者が多いセミナーとなった。センターを退任された荒川先生も書き初めセミナーの継続を快く引き受けてくださり、地域の教員の書写指導力向上に力を貸して下さった。

領域	回数	人数	代表者・講師
幼児教育	8	332	山口美和(上教大) 学教センター職員(平間)
体育	4	166	土田了輔(上教大)
人権教育	3	140	上越地区同和教育研究協議会
国語	15	122	上越国語同好会 学教センター職員(森) 学教センター職員(谷内) 荒川圭子
けん玉	30	105	学教センター職員(栗林)
食育	6	87	野口孝則(上教大)
若手教員育成	6	83	学教センター職員
特別支援教育	15	81	尾原祥弘(県立はまなす特別支援学校)
道徳教育	5	74	上廣道徳教育アカデミー
ICT教育	12	73	菊地徹(教職大学院生)
社会	2	60	志村喬(上教大)
理科	7	56	五百川裕(上教大) 稲葉浩一(上越天文教育研究会) 学教センター職員(神村)
英語	10	50	瀧澤典子(上教大)
統計学	7	31	小川亮(富山大研究員)
研究プロジェクト	4	30	田中圭介(上教大) 留目宏美(上教大) 高橋等(上教大) 東原貴志(上教大)
音楽	3	29	小島淳(里公小校長)
生活科・総合	1	13	松井研究室 内海巖(創造行政研究所副所長)
教育一般	21	94	野田晴高(上越特別支援学校) 高橋栄介(上越市教委) 山住勝広(関西大学教授) 志村喬(上教大) 大場浩正(上教大)

表1 令和4年度 領域別自主セミナーの回数と参加者数

セミナー終了時に行った参加者へのアンケートの結果【表2】を見るとどの項目も肯定的評価が極めて高い。中でもNo.8の「自主セミナーの参加について負担感はない」という質問に「そう思う・だいたいそう思う」と答えた参加者は90%を超えている。勤務時間外の研修であるのに、課題解決に役立ったことに喜びを感じているのである。

5:そう思う 4:だいたいそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない (%)

No.	質問	5	4	3	2	1
1	自主セミナーは、教師力の向上に役立つものである	89.5	9.9	0.4	0.1	0.1
2	自主セミナーは、学校の課題解決に役立つものである	76.1	19.3	3.8	0.6	0.1
3	意欲的に取り組むことができた	86.1	12.5	0.9	0.4	0.1
4	知識や技能を身につけることができた	77.4	20.2	1.9	0.4	0.1
5	新しいアイデアが浮かんだ	66.8	26.5	5.6	0.9	0.2
6	自主セミナーに参加しているいろいろな人とのつながりを持つことができた	67.4	21.2	9.2	1.5	0.7
7	自分の持っている課題を解決することができそう	59.7	30.6	8.6	0.6	0.5
8	自主セミナーの参加について負担感はない	69.9	20.9	6.3	2.2	0.6
9	自主セミナーのテーマは、教師の願いやニーズに合っている	77.8	20.1	1.7	0.2	0.1
10	自主セミナーをこれからも継続してほしい	89.1	9.7	0.9	0.1	0.2

表2 セミナー終了後のアンケート結果 (807名回答、回収率50%)

コロナ禍においても自主セミナーに毎年1,500名以上の教師や学生が集まってくるのはなぜか。

① 自主セミナーの内容が参加者のニーズに合っている

アンケートのNo.1、No.2、No.9の結果から、自主セミナーの内容が参加者の課題意識に合っていることが分かる。参加者は案内文を見て参加しているわけで当然なのだが、セミナーの内容に満足できなければ、アンケートの評価が低かったり参加数が減ったりするはずである。つまりセミナーの代表者の問題意識や授業展開が的確であり、どの年代の参加者【表3】の思いもしっかりと受け止めたものになっているから継続できていると言える。

年代	人数	%
20代	170	21.1
30代	158	19.6
40代	204	25.3
50代	120	14.9
60代	54	6.7
その他	99	12.3

表3 参加者の年齢

今日求められている新しい研修スタイルを明らかにするためにも、セミナー代表者にどのような授業内容を展開しているのか、何に気を付けてセミナーを行っているのかを聞き集約してみたい。

② 少人数で行っている

セミナーへの参加者数別に回数を比較したところ、参加者が1～5人だったセミナーは64回、6～10人が40回、11～20人が17回、20人以上が21回であり、全体の7割が10人以下のセミナーであった。

少人数によるメリットは、意見交流を積極的に行えることである。したがって大人数の研修でも少人数グループに分ければ意見交流の時間を多く取れるのだが、2つには明らかに異なる観点がある。それは代表者と参加者の距離である。10人以下のセミナーでは、代表者を囲んだグループが1つでき、参加者の思いは常に代表者にも届いている。しかし大人数の研修において自分の声が届くのは、グループに近づいたときに話しかけるとか、全体の前の質問するときである。自分の思いを聞いてほしい人に受け止めてもらっているという感覚が満足度を高めていると考える。

③ 参加形態を選択できる

右の【表4】は、今年度のセミナーの参加形態（オンライン・対面・ハイブリッド）を比較したものである。コロナ禍以前は対面がほとんどだったと思われるが、令和4年度は、対面型セミナーは全体54.1%にまで減り、その一方で非対面のオンライン型セミナーが16.4%も実施された。

参加形態	回数	%
オンライン	26	16.4
対面	86	54.1
ハイブリッド	47	29.6

表4 参加形態の比較

コロナ禍での数年間で全ての教員がオンライン授業の技術を習得せざるを得なかった。そのことで自主セミナーの参加形態が多様化し、学教センターに来なくても受講できるようになった。国語の「読みの会パステル」のセミナーでは、ハイブリッドで実施することで東京都の小学校教員や石川県の高教員と国語授業について意見を交わすことができた。センターでオンライン型・ハイブリッド型のセミナーを行えば、施設やICT機器も無料で使用しながら離れた地域の参加者と対話することができるのである。

次年度への課題も明らかになった。まず一つに自主セミナーで扱っていない教科・領域にどのように対応するかということである。新潟県教員等育成指標の区分「学習指導」「生徒指導」「学校運営」を活用すると、現行では「学校運営」に関わるセミナーが少ない。教職員間の連携、家庭や地域との連携について学ぶ場がない。「学習指導」においても開催されていない教科として図工・美術、家庭科・技術などが挙げられる。この問題を改善するために、大学や小中学校の専門の教員に依頼してセミナーを開設してもらうこともできるが、そのような方法では持続的なセミナーにならないと感じる。そのセミナーが円滑に進むように細かくサポートしなければならないからである。案内等で広く参加を募るが、基本、自主セミナーは参加者も代表者も自発的な動機で行うべきだと考える。ただ、基礎形成期（1～5年目）や能力伸長期（6～12年目）の教員が自主セミナーに用意されていない教科・領域の課題で悩んでいるときに対応できる場を用意しておきたい。そこで来年度の若手教員育成セミナーの10月11日（水）と1月24日（水）にセンター職員による「授業づくり・学級づくりセミナー」を設定し、一般教員も参加できるようにする。

二つ目は小学校教員と中学校教員の参加率の差である。【表5】この要因は様々考えられる。あるセミナーで小中間わず研修についての思いを集めたところ、以下のようなった。本音を言えばというレベルの意見ではあるが、これからの研修の重要なポイントがあるように感じた。

<参加したい研修>

- ・自分の悩みが解決される研修
- ・自分の素直な思いを発言できる研修
- ・元気にさせてくれる研修
- ・自分の得意なことを高められる研修

<参加したくない研修>

- ・回数をこなすことを要求される研修
- ・上から「こうすべき」と言われる研修
- ・大勢の中の一人の研修
- ・グループワークをさせられる研修

職種	人数	%
小学校教員	262	30.2
中学校教員	49	5.7
学部生	45	5.2
院生	176	20.3
その他	335	38.6

表5 職種別参加人数の比較

三つ目は参加者数の算出についてである。少人数での語り合いを大切にすると本セミナーの研修観からすると代表者や講師の人数も参加者に含めた方がいいのではないかと感じた。このセミナーにおける代表者と参加者の関係は、一般的な講義における指導者（知識・技能を与える人）と学習者（受け取る人）の関係ではなく、教育課題を共に考える仲間として横並びの関係にある。よって来年度からは代表者や講師もセミナーに参加している一人として数えるようにしたい。

(2) 若手教員育成セミナーの実施

初めに令和3年度の取組を振り返っておきたい。担当は荒川先生だった。年度初めの1回目は、赤坂真二先生による学級開きのセミナーだった。また松井研究室による一般向けの生活科・総合のセミナーを若手教員育成のプログラムにも入れ、生活科や総合で悩む若手教員に学びの場を提供していた。以前から担当されていた清水先生や中野先生の他に、特任准教授もセミナーを行うように勧められ小学校や中学校に向けたセミナーを行った。全10回で参加者は合わせると194名となるが、生活科・総合のセミナーは一般教員も含まれてるため、若手教員のみ的人数となると少し減ることになる。

No.	期日	曜	セミナーの内容	代表者・講師	参加数
1	4/14	水	学級経営の内容と学級担任の役割	赤坂 真二	29
2	5/19	水	生活科・総合の実践者に学ぶ①	高橋 栄介 荻戸 翠	41
3	6/2	水	学級ルールお悩み相談	清水 雅之	4
4	6/23	水	授業づくりセミナー：国語科指導案構想	谷内 卓生	20
5	6/23	水	生活科・総合の実践者に学ぶ②	炭谷 倫子 金子 愛	31
6	7/28	水	授業づくりセミナー：算数科指導案構想	谷内 卓生	11
7	7/28	水	生活科・総合の実践者に学ぶ③	倉又 圭佑 中山 卓	36
8	9/22	水	生活科・総合の実践者に学ぶ④	甫仮 直樹 高野真也	15
9	10/6	水	授業アイデア事務アイデア教えます	中野 博幸	3
10	10/13	水	新学習指導要領に対する評価のあり方	荒木 良則 杉谷 明	4

表6 令和3年度の若手教員育成セミナーの内容

今年度は筆者が引き継いだ。荒川先生ほどの大学教員とのコネクションがないこと、またセンター職員が中心のセミナーにしたかったことから以下のようなプログラムを作成した。最後の7回目は残念ながら参加者がいなかったため、全6回で参加者合計が83名となった。

No.	期日	曜	セミナーの内容	代表者・講師	参加数
1	3/30	水	学級開きセミナー	学教センター職員	23
2	6/8	水	学級づくりセミナー(若手教員限定)	学教センター職員	3
3	6/22	水	国語科指導案づくりセミナー	学教センター職員	30
4	7/27	水	算数科指導案づくりセミナー	学教センター職員	22
5	8/24	水	2学期準備セミナー	学教センター職員	3
6	10/12	水	秋の授業づくりセミナー【国語・社会】(若手教員限定)	学教センター職員	2
7	11/9	水	秋の授業づくりセミナー【算数・理科】(若手教員限定)	学教センター職員	0

表7 令和4年度の若手教員育成セミナーの内容

1回目の学級開きセミナーはオンラインでの実施としセンター職員4名で運営した。その利点が活かされ糸魚川市、妙高市などの離れた地域からの参加があり、赤坂先生のセミナーと同程度の人数を集めることができた。Zoomのブレイクアウトルームを利用し、グループに分かれて3月末の不安な思いを素直に語ったり、学級開きを実演し合ったりした。森先生や神村先生から指導や激励をいただき有意義な研修となった。

このセミナーは、3月に赤坂先生にセミナー依頼したが都合が合わず断られたところから始まった。以前は、講師役をセンター職員が務め、案内は3月の初任者と校長の面談の際に配付していたと聞き、そのセミナーをオンラインで行うことを決め、早急に案内を作成し、大学の一斉メールで4市の小中学校に案内を配付した。ただ送るだけでは見てもらえないということで特任教授の先生方から代表校長に連絡を取ってもらった。学生には卒業式の封筒に案内を入れて知らせた。

6月と7月に国語と算数の指導案づくりセミナーを行った。実地Ⅱや実地Ⅲで指導案づくりに励んでいる学生と若手教員を対象とした。今年度はそれぞれの教科指導に優れている中堅教員として国語の倉又先生(大町小)や算数の山崎先生(宝田小)に講師役を依頼した。両先生はプレゼン力も高く、参加者は熱心に教材研究や授業展開のポイントを聞いていた。

来年度、若手教員育成セミナーの取組をさらに高めていくためには、まずこの取組を上越地域の先生方に広く知らせることが必須である。来年度は、前年度3月中旬までに全体計画や案内を作成・配付し、管理職

から新採用者に渡してもらうように依頼する。新年度も4月中旬にメールで再配信し、新体制での管理職や新採用担当教員から参加を後押ししてもらう。

知り合いの先生方に新採用者の様子を聞くと、多くの先生が日常の業務こなすことで精一杯で、勤務が終わってから自主的に研修に参加する力が残っていないとのことだった。そのような先生と授業について語り合う場を作るとすれば、例えば大胆に「研修は正装で参加しなければならない」という研修観を捨て「オンラインで自宅から私服で参加してもよい」としてみてもよいのかもしれない。

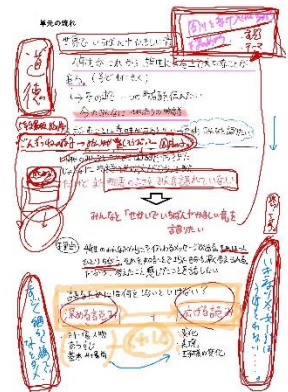
(3) 新しい研修スタイルの追究

昨年の5月に教育公務員特例法と教育職員免許法の一部を改正する法律案が成立し、7月に教員免許更新制が解消された。そして令和5年度から新しい研修制度がスタートする。

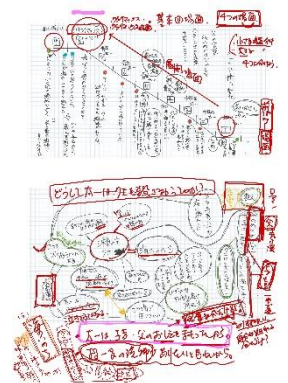
これからの教員研修は、教師一人一人が教員等育成指標を元に自分の課題を自覚し、主体的に研修をマネジメントしていくようにならなければならないと思う。そのためには、研修は上から言われていくものという研修観から自分で選んで自分で高めていくものという研修観に転換していくことが必要である。これを実現するには、勤務時間内に個別の研修時間を確保することが必要であるし、県と市と大学が連携して様々なニーズに合わせた研修内容を用意しなければならない。しかしこれがクリアできても、教師の授業構成力や学級経営力は簡単に高まらないと思われる。なぜなら数時間の研修に参加しただけでは獲得したいスキルの概略しか学べないからである。それを活用するところまで具体的にサポートしなければ「やっぱりあの先生のようにはなれない」と取組を曖昧になってしまう。この課題を克服する研修スタイルを1月から3月にかけて実験的に行ってみた。

<授業力向上プログラム>

- 1 特徴
 - ① 自分が希望する指導者から直接指導を受ける。 → 一覧表(仮)から選ぶ。
 - ② 授業検討会や授業参観はオンラインで行う。 → 授業者(糸魚川)⇔指導者(上越)
 - ③ 放課後の1時間限定の授業検討会を数回行う。 → ある程度時間をかけて行う。
- 2 実施校 糸魚川市立西海小学校 山田教諭(6年担任) 猪又教諭(4年担任)
- 3 ねらい 授業力向上プログラムによって国語の物語単元の授業改善を図る。
- 4 日程 ステージ4に向けて1月から準備を進める。資料はメールで送付。2週間に1回、オンラインで打合せを行う。



ステージ	日時	山田先生	猪又先生
1	1/16月~1/20金	作品の決定・単元計画の作成	
	1/23月~1/27金		作品の決定・単元計画の作成
2	1/30月~2/3金	教材分析	
	2/6月~2/10金		教材分析
3	2/13月~1/17金	単元計画の完成	
	2/20月~2/24金		単元計画の完成
4	2/27月~3/10金	授業	授業
5	3/13月~3/17金	振り返り	振り返り



Handwritten notes and diagrams providing detailed analysis and planning for the lesson improvement program. The notes are organized into sections with numbered points and include various diagrams and arrows to illustrate the thought process and planning stages.

4. 拉致問題啓発セミナー

令和4年度の拉致問題啓発セミナーは、上越教育大学が新潟県庁国際課拉致問題調整室における主催事業の依頼を受け、上越教育大学の清水研究室が主体となり、学生・院生10名とともに取り組んだものです。

令和4年度 拉致問題啓発セミナー実施報告

上越教育大学
清水 雅之

1 はじめに

令和4年度の拉致問題啓発セミナーは、上越教育大学が新潟県庁国際課拉致問題調整室における主催事業の依頼を受け、上越教育大学の清水研究室が主体となり、学生・院生10名とともに取り組んだものである。

本セミナーを主催した新潟県庁国際課拉致問題調整室は、「新潟県では、これまで拉致問題に関する理解促進活動を展開してきている中、拉致問題に対し関心が薄れてきている徴候が見られる若年層の理解促進を図ることが重要であると考えられる。については、大学生を対象とする拉致問題啓発セミナーを開催し、参加する大学生が拉致問題を人権問題として考え、この問題の実態や背景等についての理解を深め、教育現場で拉致問題を児童生徒に伝えていく契機とする。」ことを目的としている。

上越教育大学では、これまでに2回本セミナーを実施してきているが、その目的を次の2つ考えている。

1つは、「人権教育・啓発基本計画(閣議決定)¹ 第4章 人権教育・啓発の推進方策 2 各人権課題に対する取組」の「(12)北朝鮮当局による拉致問題等 3 拉致問題等に 対する国民各層の理解を深めるため、地方公共団体及び民間団体と協力しつつ、啓発事業を実施する」及び「4 学校教育においては、児童生徒の発達段階等に応じて、拉致問題に対する理解を深めるための取組 を推進する」ことである。

もう1つは、拉致問題を人権問題として考えることを契機とすることを目的として、大学生(大学院生 も含む)を対象とした啓発セミナーを実施することである。実施にあたってのコンセプトは、以下の4つ である。

- 1) 自ら現場に足を運び、問題の本質を感じ取る。
- 2) 直接、関係者と対話し、生きた知識と経験を身に付ける。
- 3) 多面的・多角的に問題を捉え、児童生徒に伝える内容を構想する。
- 4) 児童生徒に授業することを通して、人権問題を教育の場で扱うことを実践的に学ぶ。

本年度の拉致問題啓発セミナーにおいても、これまでの目的、4つのコンセプトをもとに、拉致問題に関する授業参観、佐渡での学習会、拉致被害者・被害者家族との交流、県民集会への参加等を通して、学習指導案を作成し、上越市内の小中学校で授業を行い、授業実践後のリフレクションを経て、指導案を修正したものを最終的な成果とした。

¹ 人権教育・啓発基本計画(平成14年3月15日閣議決定(策定)、平成23年4月1日閣議決定(変更))

2 実施したプログラム

(1) 啓発セミナー経験教員による授業参観

実施日：令和4年7月8日(金) 9:30～10:15

会 場：上越市立春日新田小学校

内 容：拉致問題に関する授業参観

学校現場で拉致問題に関する授業がどのように行われているかを知るために、上越市立春日新田小学校に協力していただき、授業を参観させていただきました。令和元年度に実施した拉致問題啓発セミナーに参加者であり、現在、教員となっていた吉田 丈先生から授業を実施していただいた。自身がセミナーでの作成した指導案を元にして、他教員からの検討を通して実践された、素晴らしい授業を拝見することができた。

参加者：総勢7人（学部生4人、大学院生1人、教員1人、
過去の啓発セミナー参加者（現職の小学校教員）1人）



<参加者の振り返りより>

本日、新潟県拉致問題啓発セミナーの一環として、私たちと同じようにこの拉致啓発セミナーを経験されている春日新田小学校の吉田教諭による拉致問題を子どもたちに伝える授業を観させていただきました。まず、私が今回このセミナーに参加しようと思ったきっかけは自身が新潟県民であるにも関わらず、ニュースではよく目にしているも正直なところあまり拉致問題の詳細を理解していないということに問題意識を感じたからです。

私は子どもたちがアニメ「めぐみ」を観ている表情や様子を観ていてとても印象的だったことがあります。それは横田めぐみさんが連れ去られてしまうシーンのアニメ内がとても暗く描かれ、音もリアルで大きくなったときです。ある児童はそれまで机に突っ伏してアニメを見ていたのに急に姿勢を正して真剣な眼差しで見たり、また別の児童は顔がどんどん下がっていき涙をうかべたりする様子が見られました。児童たちの中では純粋にアニメの見た目や音が怖いという感覚からそうなった児童もいるかもしれませんが、その後の吉田教諭による授業内の問いかけに対する児童たちの言葉を聞くと「めぐみ」のアニメを自分ごとで捉えてさまざまな感じ方をしていたことがわかりました。というのも、吉田教諭が今回この授業を「道徳」の家族をテーマとして作成していることが子どもたちにとって拉致問題を自分ごとで考えさせることに繋がったと考えます。授業内の随所で吉田教諭が「おうちの人はどう思ったかな？」「大切な人がもしいなくなったら」というように当たり前接している家族や周りの友人の存在について直接的に語りかけていました。こういった拉致問題を身近な人になぞらえて行っていくことで、子どもたちには拉致問題と同時に家族のありがたみなど当たり前となっているものの幸せに気づかせることができたのではないのでしょうか。子どもたちへの拉致被害者・拉致被害者家族の気持ちを考えさせるというその人の気持ちになって物事を考えることや、日常を振り返るといふ道徳の教科と拉致問題の重なっている部分だと学びました。

私が授業をする立場になったら、難しいテーマではあるもののやはり子どもたちの当事者意識を大切にし、子どもたちから拉致問題に少しでも関心を持ってもらえるような授業をしたいです。

(2) 概要説明等

実施日：令和4年8月9日(火) 9:00～12:00 (予定)

会場：上越教育大学 教室

内容：○ 県の人権問題の概要説明 (20分程度)

講師：県福祉保健部福祉保健総務課人権啓発室長

○ 拉致問題の概要の説明 (30分程度)

講師：県知事政策局国際課拉致問題調整室長

○ 映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」の上映

参加者：総勢9人 (学部生5人、大学院生1人、教職員3人)



<参加者の振り返りより>

今回のセミナーに参加することができて、とてもよかったですと思っています。これまでも人権教育の一環として、拉致問題を取り扱うことはありました。しかし、教える立場の自分自身が十分に理解できていなかったり、授業を通して、子どもたちとともに考えたいことを明確にできていなかったりする点がありました。県の取組を学んだり、映画を観たりすることで、理解できたわけではありませんが、その後も継続して考えている自分があります。拉致問題に対して考え続ける子、学んだことを家族や周りの人に伝えようとする子を育てていくことが必要だと、いまは感じています。

最後の振り返りで話したように、拉致問題の学習を「ひどい」「怖い」「かわいそう」という感情だけで終わらせ、「昔あった出来事」という過去の事件として、子どもたちが捉えてはいけないと思っています。そのため、拉致問題の学習を行う上で、子どもたちに何を感じ取ってもらいたいのか、何を考えさせたいのかを明確にしなければなりません。よく吟味して、学習の終末部分を構想しなければいけないと改めて感じました。そして、セミナーに参加する前から、子どもたちと学ぶための授業構想をしていましたが、そもそも、自分自身をもっと知らなくてはいけない問題であると気付きました。知らないことは語るができない、そして自分の考えをもつことができないからです。事実や取組、被害者家族の心情を学ぶことで、自分なりに何ができるか、どのような行動をするべきかを考えるきっかけにもなります。知った気になるのではなく、繰り返し学びながら、知識を増やしたり、考え続けたりしていくべきだと感じました。

また、セミナー終了後に、清水先生と話した時間がとても有意義でした。学びの後に、自分の言葉で振り返る時間が自分の頭の中や考えを整理することにもなります。対話を通して、視点を増やしたり、広げたりすることができました。今回の拉致問題に限らず、「知る(学ぶ)→考える→自分の言葉で伝える、他者の考えを聴く」という行為を繰り返していくことが、自分の考えを確立させていくと感じました。ある教科の一時間あるいは数時間ではなく、毎日の子どもと過ごす時間や対話する時間の中で、子ども一人ひとりの人権感覚を養っていくことができる教師をめざしたいです。今回の清水先生との対話のような時間を、子どもとつくっていきたいです。

来月、現地を訪れて、自分がどんなことを感じるか、どんな考えをもつか、興味があります。貴重な機会となるので、視野を広げ、多くの方とかわりながら、学んでいきたいです。

(3) 佐渡プログラム

時 期：令和4年9月5日(月)～6日(火) 1泊2日

内 容：拉致現場視察（曾我ミヨシさん・ひとみさん拉致現場視察）

曾我ひとみさんの講話・懇談

小田生活相談員のお話

ブルーリボン作り体験等（拉致被害者支援者との交流）

参加者：総勢11人（学部生5人、大学院生4人、教職員2人）



<参加者の振り返りより>

今回は佐渡の研修や曾我さんにお会いして感じたこと、そこから授業につなげていくにあたって考えること、このゼミに参加しての感想について書きたいと思います。

曾我ひとみさん（以下ひとみさん）にお会いして感じたことからお話しします。ひとみさんは終始、拉致の話の時自分のことではなく、周りの人の心配をしていました。それがはっきりと感じたことは、私が、「なぜ拉致された場所でもある佐渡にかえって来たのか」という質問をさせていただいたとき、言葉に詰まりながらも、また、最後は一緒に同席していた小田さんの言葉から、「母ミヨシさんが帰ってきたときに、母がいなくなった時のまま待っていたいから」という言葉から、ひとみさんの強い思いを感じられた気がしました。また、帰国した際も、北で待つ家族の心配をしていたり、そこまでかと思ってしまうほど、周りの人への愛であふれた方だなと感じました。

また、ひとみさんは何を知ってもらいたいのか、という問いに対し「ある日突然当たり前が当たり前じゃなくなる、ということ想像してほしい、特に家族の大切さについて考えてほしい」ということをおっしゃっていました。ひとみさん自身、19歳のある日突然当たりの日常が奪われたことから、やはりその言葉の重み、怖さを感じました。まさか家がすぐ目の前で、しかも母と二人で歩いているのに、拉致されるとは思いもしないことでしょう。それは拉致現場に実際に行って、より感じたことです。また、北での生活も、想像を絶するものがありました。私たちは「北で過ごした中で気が安らいだことはなにか」という質問を何回かしました。しかしまず娯楽なんてものはほとんどなく、つねに監視下であったということ聞き、あまりにも過酷だったのだと実感しました。拉致があったことで、ひとみさんの当たり前は奪われてしまったと思うと、それが計り知れないものだと感じました。ひとみさんはとても明るい方でした。この拉致という話もちろんそうですが、ひとみさんのことを授業で伝えたいなとおもいました。

次にこの拉致問題やひとみさんとの話を授業にするにあたって、正直なところ拉致問題を授業にすることに疑問を持っていました。なぜなら、おそらく今の小学生はおそらく拉致のことについて何も知らないし、興味を示さないのではないかと思ったからです。教師側はやりたかもしれないけど、果たして子供にとってはどうなのかと懐疑的でした。そしてまた、今教壇に立っている多くの方は、拉致問題やひとみさんのことをそこまで知らないだろうと思います。清水先生も研修の時おっしゃっていましたが、これを「やらなくてはいけないもの」として教員の多くの方は扱っているのだなと思います。私もこのセミナーに参加せずに教壇に立っていたら、拉致問題に対して「やらなくてはいけないもの」として扱っていたのかなと思います。今では拉致問題は「やりたい教材」です。しかし、こどもたちは拉致問題に興味を示さないかもしれない。少なくとも私が小学生の時には興味のない、知らない子がほとんどだったと思うし、今のこどもたち、あるいはその子どもが大人になったらなかなか拉致問題を扱っていくのは難しくなるでしょう。では、何をつたえていけがいいのか、私はある日突然当たり前が当たり前じゃなくなる、ということを想像してほしい、というひとみさんが一番伝えたいとおっしゃいたことを軸として授業を積み立てていきたいです。自分にとってのあたりまえは何か、考えてもらったうえで、拉致というものがあつたこと、ある日突然日常をうばわれたひとみさんや、周りにいる人の大切さを考えてもらう活動をしてほしいと思います。拉致について知る、が目的ではなく、拉致を通じて当たり前の日常の大切さを考える活動にしてほしいです。そのために自分のあたりまえと、ひとみさんの体験を重ねてもらいたいなと思います。今回私はこのセミナーに参加するまで、ひとみさんの名前を知りませんでした。授業をするにあたり、何も知らない子たちに伝える、ということに注意したいです。



ブルーリボンづくりを終えて

(4) 授業づくり

時 期：令和4年9月～12月

内 容：セミナーでの学び（概要説明、授業参観、佐渡プログラム等）から、小学生を対象とした授業を構想し、指導案としてまとめた。各グループは、現職派遣の大学院生1名、学部生4名、計5名を1グループとし、2グループに分かれて「授業づくり」を進めた。Aグループは、道徳の授業を構想し、現職院生が所属する学校で実践をし、指導案の精度を高めた。Bグループは、教科横断的な考えで、計3時間（社会科、道徳、家庭科）の授業を構想した。

参加者：総勢11人（学部生6人、大学院生4人、教員1人）



(5) 授業実践

時 期：令和4年11月28日（月）13:40～14:25（Aグループ）

令和4年12月12日（月）13:40～14:25（Bグループ） 他

会 場：上越市立直江津小学校（上越市住吉町3-5）

内 容：2グループに分かれて、実際に拉致問題に関する授業を実施した。

参加者：総勢11人（学部生6人、大学院生4人、教員1人）



(6) 成果報告会

日 時：令和5年2月14日（火）13:00～14:30

会 場：上越教育大学 大会議室

内 容：学長挨拶

2グループから指導案作成及び授業実践報告（20分×2チーム）

質疑応答

曾我ひとみさんからの講評（オンライン）

新潟県国際課拉致問題調整室より挨拶

参加者：総勢14人（学部生5人、大学院生3人、教職員6人）



※ 「忘れるな拉致 県民集会」への参加（任意での参加）

日 時：令和4年11月12日（土）

会 場：新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ・コンサートホール）

内 容：県民集会の開始前、開始後に署名活動に参加した。また、県民集会にも参加した。

参加者：総勢4人（大学院生3人、教員1人）



3 終わりに

今年度の拉致問題啓発セミナーは、本学にとって3回目のセミナーであった。回数を重ねる度に、少しずつ改善し、より良いものになるように努めてきているが、主催の新潟県庁国際課拉致問題調整室の皆様から多大なる協力を得て、これまで以上の成果を得ることができたものであった。これまでにない成果としては、

「過去のセミナー参加者による授業実践の参観」

「曾我ひとみさんの拉致体験の教材化」

「児童によるブルーリボンづくり」

である。

「過去のセミナー参加者による授業実践の参観」ができたのは、これまでの積み重ねがあったからである。過去のセミナーに参加した学生が教員となり、上越市に赴任したことで実施することができた。

これまで2回のセミナーにおいても指導案を作成してきたが、多くの授業でアニメめぐみを利用したこともあり、曾我ひとみさんを題材とした授業は行われていなかった。我々の質問に丁寧に答えてくださった曾我さんの思いを多くの子どもたちに伝えたいと考え、「曾我ひとみさんの拉致体験の教材化」につながったのである。読み物資料を作成し、実際に授業を行なって手応えを確認したり、曾我さんから文章の確認をしてもらったりして完成することができた。学校現場において、アニメめぐみを活用することはもちろんであるが、今回作成した読み物資料も多くの学校で活用されることを願い、新潟県教育委員会に資料提供することにした。

拉致啓発セミナーの第2回目からブルーリボンづくりを体験しているが、そうしたリボンづくりを子どもたちにも体験してもらうことで、拉致問題をより深く考えたとともに、拉致問題を忘れない・拉致問題の解決に動こうとする子どもを育むことができるのではないかと考え、「児童によるブルーリボンづくり」を構想した。ブルーリボンづくりには時間がかかってしまったが、子どもは楽しみながらリボンづくりに取り組み、出来上がったリボンを服や身の回りのものに取り付け、嬉しそうにしている姿を見ることができた。こうした活動を伴うことにより、拉致問題を忘れるだけでなく、家庭などで話題をしてくれるのではないかと考える。

本セミナーに参加した学生・院生が教員として教壇に立ち、拉致問題に関する授業実践に取り組むことで、授業を受けた子どもたちが、多くの人との間で拉致問題について話題にすること、拉致問題に何らかの形で取り組むことを期待したい。

4 謝辞

今年度の拉致問題啓発セミナーの実施にあたり、師範授業に取り組んでいただいた上越市立春日新田小学校の皆様、学生の授業実践を行わせていただいた上越市立直江津小学校の皆様にご感謝申し上げます。また、曾我ひとみ様には、お忙しい中、我々の取り組みに協力していただき、拉致の実際について丁寧に教えてくださいました。心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、新潟県庁国際課拉致問題調整室の皆様からは、各種団体等との連絡・調整など多岐に渡り、大変お世話になりました。感謝申し上げますとともに、今後も多くの大学等の学校において、拉致問題啓発セミナーが実施されることを願います。

(上越教育大学 清水雅之)

センター関係教員

中野博幸(代表)

清水雅之

渡辺径子

荒木良則

栗林育雄

谷内卓生

山上純

神村大輔

中島秀晴

平間えり子

森一夫

大野雅人

小林晃彦

岩崎浩

土田了輔

令和4年度

上越教育大学学校教育実践研究センター一年次報告書

令和5年3月

発行 国立大学法人上越教育大学学校教育実践研究センター
新潟県上越市西城町1丁目7-2
